

日本共産党綱領と「人間の自由」

《初期の共産主義思想とマルクスの到達点》



共産主義と自由

その目的は、支配階級(地主貴族、資本家)

に独占されてきた「自由な時間」を取りもどすこと。当初はそのために「分業をなくす」・・・「朝には狩りをし、午後には釣りをし、夕方には牧畜を営み、そして食後には批判(哲学)をする」(1846年、「ドイツ・イデオロギー」)



マルクスの思想は発展し、「自由な時間こそ真の富」(「資本論」第三部第7篇、草稿は1865年)・・・「朝は工場に行き、午後はスポーツをし、夕方は家族と過ごし、夜は音楽会に出演・・・」(横堀の勝手な想像)

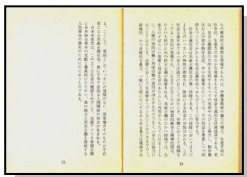
《日本共産党綱領と「自由」・・・反共攻撃とは真逆！》

第1は、アメリカの支配からの自由です。真の独立は今も日本独特の課題です。実際にアメリカの支配は日本社会のまともな発展の足かせとなっています。たとえば米軍被害、アメリカの要求に基づく大軍拡、憲法9条攻撃、最近では[沖縄県議選が終わるまで米兵の性犯罪を隠ぺい](#)がそのひどさを表しています。それは同時に社会主義革命唯一論からの決別([61年綱領:「党創立100周年記念講演から」](#))でした。

第2は、武力革命唯一論からの自由(決別)です。朝鮮戦争の直前、ソ連のスターリンからの武力革命の押し付けで党が分裂した、「50年問題」を克服する中で、日本での武力革命をきっぱり拒否して「議会の多数を得ての革命」の路線を確立しました。([61年綱領:「党創立100周年記念講演から」](#))

じゃあ、ロシア革命は何だったの?!

※あとで分かった事・・・朝鮮戦争は[スターリンの策略!](#)(「スターリン秘史」⑥)

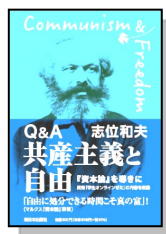


61年綱領末尾

- ・武力革命唯一論の源は「国家と革命」(レーニン)の民主共和制否定論の誤り
- ・民主共和制こそ社会主義への大道というのがマルクス・エンゲルスの考え



第3は機械的平等論(分配論)からの自由です。生産者が抑圧されていた旧ソ連は、本当の社会主義ではなかった。機械的な分配論(必要なものが来ない、余計なものが来る)は、実はこれもおおもとは「国家と革命」の誤りから来ているもので、[2004年綱領改定で61年綱領の弱点から脱却](#)しました。さらに、2020年綱領の一部改訂で、発達した資本主義からの革命こそ歴史の大道であり、日本の社会主義的未来は、①資本主義のもとでつくりだされた高度な生産力、②経済を社会的に規制・管理するしくみ、③国民の生活と権利を守るルール、④自由と民主主義の諸制度と国民のたたかいの歴史的経験、⑤人間の豊かな個性など、資本主義のもとでの成果を継承・発展させるとしました。([現綱領第一八節](#))



《共産主義と自由》

自民党政治の行き詰まりの中で、日本共産党の政権入りが問題になる中で、政策的には日本共産党を攻撃できないので、反共攻撃の最後の砦となったのが「共産主義と自由」の問題です。これについて、志位議長がマルクスの本来の思想到達点は「自由な時間こそ真の富」(「資本論」第三部)であることを、改めて解明しました。(Q&A 共産主義と自由 Q23)

《日本共産党員の「自由」とは?・・・問題提起であり結論ではありません》

では日本共産党員の「自由」とは何でしょうか。それはまず、個人と社会の自由獲得のために自由にたたかうことではないでしょうか。これこそ戦前にはなかった一番の自由です。そして、徹底した民主的な討論で方針を決め、党员一人ひとりが条件と得手を生かしてその方針の実践に力を合わせるという「民主集中制」は、個人としても集団としても成長・発展して行く保障ではないでしょうか。

※日本共産党創立 100 周年記念講演の[テキスト](#)と[動画](#)はこちらをクリック。